

事業評価アンケート

I. 趣旨

多様な個人が能力を発揮しつつ、自立して共に社会に参加し、支え合う「共生社会」を築いていくためには、地域住民や非営利団体などによる社会活動の充實が必要不可欠であるという認識のもと、地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」では、高齢者、障害者及び青少年の各分野において社会活動に携わる日本青年を海外に派遣している。また、海外の非営利組織などで活動する青年リーダーを日本に招へいし、国内での相互交流を通じて、地域における社会活動の中心的担い手となる青年リーダーの能力の向上と、各国、各分野間のネットワークの形成を図ることを目的として実施している。（※本事業は、平成14年度から平成27年度まで、「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」として実施された。）

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、参加青年の安全を確実に確保することは困難と判断し、オンラインによる交流を実施することとした。交流対象国は、高齢者分野はオランダ王国、障害者分野はニュージーランド、青少年分野はデンマーク王国とし、各分野の2国間交流として、オンラインによるディスカッション、施設紹介等を実施した。

日本参加青年の育成の観点から、内閣府青年国際交流事業の共通の目的は「国際社会の各分野でリーダーシップを発揮し、社会に貢献する青年を育成する」ことであり、本事業ではこれに加えて、非営利団体の運営能力向上及び専門分野の知識の向上、並びに3分野が連携するネットワーク作りを目指している。

本事業では、以上の目的を達成するため、関連分野の課題に応じて総合テーマを定めるとともに、分野ごとにディスカッションテーマを設定して取り組んだ。各分野にかかる日本の施策の説明、また、日本及び交流国の先進的・特徴的な社会活動現場や関連施設の紹介を行い、ディスカッション活動への導入とした。

本年度事業の成果を測るため、日本参加青年及び外国参加青年全員を対象として事業終了時にアンケート評価を行った。アンケート評価の数値基準は、5段階評価（評価の高い方から5～1）を基本とした。

II. 評価結果

1. 事業目的の達成度

① 参加者間のネットワーク

「本プログラムに期待していたことは何ですか」との問いに、6つの選択肢で複数回答を求めたところ、日本参加青年、外国参加青年ともに「参加者間のネットワーク作り」に最も関心があるという結果を得た。プログラム後の評価として、「本プログラムに参加することで、外国参加青年（交流国参加青年同士を含む）と今後につながるネットワークを築けたと思いますか」との問いに対して、日本参加青年の回答は、3（ある程度そう思う）以上が93%、4（そう思う）以上が43%であった。外国参加青年の回答は、3（ある程度そう思う）以上が94%、4（そう思う）以上が59%であった。

「本プログラムに参加することで、日本青年と今後につながるネットワークを築けたと思いますか」との問いに対して、日本参加青年の回答は、3（ある程度そう思う）以上が100%、4（そう思う）以上が87%であった。外国参加青年の回答は、3（ある程度そう思う）以上が82%、4（そう思う）以上が65%であった。

② 各分野の状況についての情報取得

「本プログラムに期待していたことは何ですか」との問いに対して、日本参加青年、外国参加青年ともに次点となった回答は、「各国の高齢者・障害者・青少年分野の状況についての情報取得」であった。プログラム後の評価として、「本プログラムに参加することで、自分の団体や地域における活動にあたり役立つ学びを得られましたか」との問いに対して、日本参加青年の回答は、3（ある程度得られた）以上が100%、4（得られた）以上が77%であった。外国参加青年の回答は、3（ある程度得られた）以上が100%、4（得られた）以上が65%であった。

③ 能力の向上

「本プログラムに参加することで、地域のコアリーダーとして活躍するうえで必要な能力を高める